巻頭言

日野町リノベーションLabでの研究と実践と今後

日野町長　垰田　淳一

農林水産政策研究所におかれましては、日野町政に対して平素より格別のご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

日野町は、鳥取県西南部に位置している人口2600人ほどの山あいの町です。町内には全国で唯一の縁起の良い名前の金持神社があり、その名前にあやかろうと全国から多くの参拝客が訪れます。また、町内を流れる日野川では毎年400～800羽のおしどりが飛来しており、その愛らしい姿は訪れる人に心安らぐひとときを与えてくれます。

さて、農林水産政策研究所と私どものなれそめ（？）は、かつて日野町で移動販売事業をされていた安達商事を通じてのものだったと聞いております。令和５年３月28日には、同日発足した日野町リノベーションLabに関する連携協定を農林水産政策研究所と締結し、さらに関係を深めることとなりました。この「日野町リノベーションLab」ですが人口減、高齢化、産業経済の衰退等社会インフラを取り巻く状況の悪化の中「安心して暮らし続けるよう町を持続させる」ための研究及び実践を目的として設置されています。日野町リノベーションLabは住民、研究チーム、行政で構成されており、専門家の研究チームと住民、行政が連携しながら研究を進めます。町全体のリノベーションのための研究実践を行い、将来的には蓄積したノウハウを他の団体に展開したいと考えます。

具体の研究内容ですが、スタートした令和５年度は農林水産政策研究所と日野町は共同で日野町の委託事業として合同会社「ひまわり」が担っている移動販売の果たす役割について研究しました。この研究は実際に町内の利用者に調査を行い、ユーザの期待するものや事業効果とはなにかを解き明かすものです。１年間のアンケートや聞き取り調査の結果、利用者は単に食品購入だけでなく、販売者との会話も期待している内容であるといったことが分かってきました。

これは単に食料品アクセスの問題だけでなく、移動販売は安否確認や見守りとしての機能も重要であるということであり、町が委託の所期の目的とした住民の安心安全の生活のための機能が発揮されていることを裏付けるものとなりました。

さらに令和６年度は研究所と町は共同で「他出子」について調査を開始しております。他出子とは、地域外に住む住民の親類またはその地域に地縁がある人で地域住民の子ども、地域住民の子どもの配偶者、地域住民の孫、地域内に空き家となった実家がある人などを指します。日野町のような中山間地域では出身者の多くは就職や進学を契機に地元を出て他出子となります。

ただ他出子となった後も、出身地域との関係は保ち続け、町の外からでも草刈りとか祭りなどの行事には参加されているということもよくあり、住民ではないながらも地域の担い手として一翼を担っているということもあるようです。他出子と町内の親族や自治会はどういった関わりをしているか、集会の場や祭りの会場に出向き実態調査を行っています。

今後、他出子の方がどういう考えを持っておられるか調査を深化させ、さらには関係人口として関係を強化していくといった実践につなげていくような取り組みにつなげていきたいと思っています。

日野町リノベーションLabでは、この他にも住民の方や他の連携協定締結団体と様々な研究や実践を進めています。毎週火曜日と月末の土曜日には、ボランティアの方を中心に子ども食堂「だんだん食堂」を開催しています。また他の連携協定締結団体との活動も進んでおり、最近の動きとしては連携協定締結団体の一つである株式会社中海テレビ放送と「地域幸福度調査」を実施しております。日野町リノベーションLabはまだスタートしたばかりの取り組みです。私たちはこの取り組みを地域に根付かせ、この根の上に太い幹を育て大輪の花を咲かせたいと思っています。

今後とも日野町をよろしくお願いいたします。